

私が、この研修プログラムに参加しようと思った経緯は、自分の英語力を試してみようと思い、その英語力でエジンバラ大学で行われる授業に参加しようと思ったからである。まず私は、小さいころから英語に触れてきて、少しだけ英語という科目について自信があった。さらに英語を通して法律を学ぶことについて興味があったからである。実際に参加してみて、英語を通してイギリス、特にスコットランドの法律事情について学ぶことができた。エジンバラはスコットランドという場所にあり、法律に関する英語の単語も少し違う点などが、興味深かった。今回の研修では、c o v i d - 19 の影響もあり、ホームステイをすることは叶わなかったが、日々積極的に外出して、お店などに入ることで、英語を使うことができた。

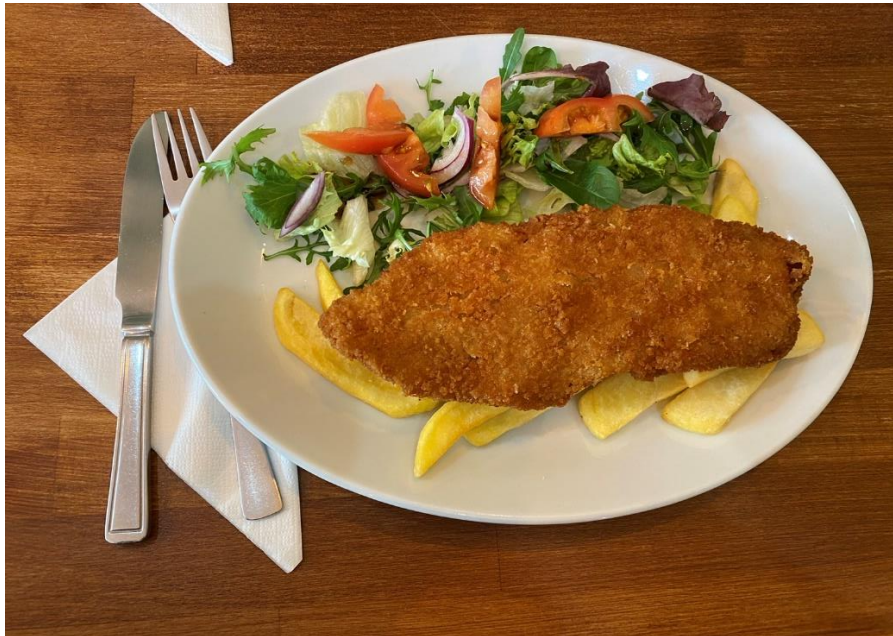
次に私がエジンバラ滞在中に訪れた場所を紹介する。

まず一つ目は、ロンドンである。私は、研修中に仲良くなった金沢大学の友人、複数人と。この同じプログラムに参加していた、関西学院大学の友人と一週目の土日に行った。エジンバラからロンドンは列車でおよそ 4 時間ぐらいかかる。ちょうどその日には、プレミアリーグの決勝戦が行われており、列車の中は日本では体験することのできないお祭り状態であった。私はここで早くも外国のスポーツにかけける思いを感じることができた。ロンドンについてからは、初めビッグベンを見に地下鉄に乗った。その近くにあるバッキンガム宮殿も見に行った。バッキンガム宮殿の近くには大きな広場があり、そこには歴史上で活躍した誰もが知っている人物の銅像があった。



次に私が訪れたのは、私たちが宿泊していたホテルから徒歩 5 分ほどの場所にある、フィ

フィッシュアンドチップスのお店である。私は友人とエジンバラで週に 2 回ほどのペースでフィッシュアンドチップスを食べにお店に行っていたがこの場所は、味もよく価格帯もちょうどよかったので、お気に入りの店である。主にフィッシュアンドチップスはタルタルソースとケチャップで食べていたがこのお店では塩で食べたのが思い出である。



つぎに私が訪れたのはエジンバラゴーストバスツアーである。エジンバラという町は、歴史的な建造物が多く、幽霊などの心霊が有名である。実際に参加してみて本当の墓地などを回ったりする本格的なバスツアーであった。ガイドが英語であるので英語力を鍛えることも可能である。エジンバラに行ったときはぜひ参加してほしい。



エジンバラ大学法律英語研修に参加して感じたこと

本レポートでは、私が春休みを活用してエジンバラ大学法律英語研修に参加して感じたことを述べる。また、本研修におけることに限らず、自らが研修に参加した動機や渡航までの準備、この研修を今後どのように活用していくのかについても述べようと思う。

まず、私が本研修に参加した動機についてである。本研修に参加した理由として、私が総合教育部文系から法学類に移行した理由が、「エジンバラ大学法律英語研修」であったことだ。他にも進路に法学の知識が必要などの判断要素もあったが、移行の決め手としては本研修に参加することが将来的にも自分にとって最も貴重な経験になることが予測できたからである。エジンバラ大学（エディンバラ大学）は「英国、スコットランドの首都エディンバラに所属する国立大学である。」¹様々な世界大学ランキングで上位 30 位に入るなど世界的にも学術的評価は高い大学である。個人の留学プログラムを除けば、金沢大学内で最もレベルの高い研修プログラムであり、研修期間も約 1 ヶ月と短期で修了できるため卒業時期を遅らせたくない人でも受講が可能である。IELTS などの研修に参加する要件の基準も比較的低く設定されており、参加したいという意志さえあれば参加できることも本研修に参加しようと考えた理由である。二つ目の理由として、英語を習い始めた幼少期からイギリスを訪れたいかつ学びたいという夢があったからである。昔から、アメリカ英語やオーストラリア英語を学んできた私にとって、イギリスの発音はとても不快感があった。しかし、中学生の頃の恩師が、イギリス出身だったこともありイギリスの文化などに触れる機会が多くなり次第にイギリスに興味を持つようになった。また、イギリスを渡航先に考える大学生の大半がイギリスの作家 J・K ローリングの小説である「ハリー・ポッター」に影響を受けていると思うが、私もその一人である。また、「ハリー・ポッター」だけでなく、同じくイギリスの有名な作家としてアーサー・コナン・ドイルがいる。彼の『シャーロック・ホームズ』シリーズは読んだことのある学生は少なくとも、名前を知らない学生はいないだろう。他にも、バッキンガム宮殿やウェストミンスター宮殿などをはじめとした観光地の数々など、日本からの距離こそ遠いものの多くの学生が魅了される国である。

次に、渡航までにした準備について述べる。渡航前までにした準備として、大きく二つに分けられる。事前学習として位置付けられている東川教授による「基礎演習」への参加と外部

¹ エディンバラ大学. <https://ja.wikipedia.org/wiki/エディンバラ大学>
(アクセス日：2023/04/05)

試験を含む語学の勉強である。一つ目の「基礎演習」は、毎週水曜日四限に日本人学生と留学生と一緒に授業を受け、法学の様々なテーマについて英語で議論するという形式で行われた。留学生と講義と一緒に受講することで、必然的に英語を使用する機会が増えるだけでなく、法学の専門用語を英語でどのように表現するのかについて学ぶ機会にもなった。また、日本の法学知識を教えるだけでなく、留学生らの国の制度や文化についても知ることができた。渡航までにした準備の二つ目は、語学の勉強である。研修への参加要件として、IELTS のスコア提出が求められた。これまで、英検や TOEIC 等の外部試験を受けてきたが、IELTS の試験を受けるのは初めてだったため、IELTS で頻出する単語や予想問題に取り組んだ。試験までの期間が短かったため十分な対策をすることはできなかったが、参加要件を超えることはできたため感覚を掴んでおいて良かったと思う。帰国後再度 IELTS を受けてどれくらい英語スキルが成長してみたのか確認する予定である。

次に研修の概要や余暇の過ごし方について述べる。まず、研修の概要について、研修は大きく「ポスタプレゼンテーション」と「最終プレゼンテーション」に分かれていた。「ポスタプレゼンテーション」では、「JAGGARD v DICKINSON [1980] 3 All ER 716 (QBD)」の飲酒時の錯誤が抗弁と認められるかという内容を扱った。この判例は、テーマの選択肢の中でも一番複雑な判例であったため理解までに時間を要したが、最終的に多数の人の前で説明することができた。また、本研修では最終プレゼンテーションに向けて各自が調査テーマを決めて路上アンケートを取る必要があった。私たちは大学内、エディンバラ城やロイヤルマイルを中心として学生や観光客にアンケートに協力してもらった。調査テーマは「飲酒に関する規制と法」であったため、いろいろな国の飲酒可能年齢や日本との飲酒に対する価値観・文化の違いについて学ぶことができた。また、研修ではスコットランド議会を訪れる機会があった。スコットランド議会はエディンバラの中心から離れたところに位置していて、他の歴史的建造物とは異なり現代アートを取り入れた洗練された建築物であった。また、議会において席は指定されておらず、議員は好きな席で議会に参加することができ、外からの光も入っていてとても集中できそうな環境であった。議会の他にも高等裁判所に訪れ、裁判を傍聴する機会もあった。英国の裁判は、日本での民事裁判等とは異なり日本の弁護士や検察官のドラマに見られるような裁判を行っていた。研修全体を通して、もちろん全て英語で行う必要があり、最初は少し不安を感じていたが、教授やメンターらがわからない単語や表現を分かりやすく説明してくれたため、普段の講義に限らず授業後に分からなかった表現を復習することができた。

最後に余暇の過ごし方について述べたいと思う。まず、1日の講義終了時間は日によって異なるが午後2～4時には終わることが多かった。また4時ごろに終わる日は、高等裁判所の訪問やメンターによるエディンバラの案内などが多く、午後は比較的自由なイメージであった。また、休日は友達とロンドンまで電車で観光しに行き、ウェストミンスターやベイカー・ストリートなど数々の観光名所や歴史的建造物を訪れた。また、2週目の休日にはハ

イランドやグレンフィナン高架橋を訪れるツアーに申し込み、ハイランドの美しい自然を見ることができた。今回は一人でツアーに参加したが、エディンバラに帰る頃にはたくさんの人と仲良くなることができ、ツアー中も英語のリスニングの練習にもなったので、是非海外に訪れて休日が1日空いている際にはツアーを申し込むことをお勧めする。他にも、スコットランド料理であるハギスやフィッシュアンドチップスなどの現地の料理にも挑戦し、ウィスキーなども楽しむことができた。パブなどの雰囲気もとてもよく、個人的に日本の居酒屋よりも心地が良かった。

今回の研修を通して、エディンバラの制度や法律について英語を用いて学ぶことができた。これまで、金沢大学の留学プログラムには複数申し込んできたが、新型コロナウイルスの影響でどれも遠隔プログラムであった。今回初めて金沢大学の留学プログラムで実際に海外に行くことができたのだが、事前段階からサポートが充実していて、教授方も学生が渡航しやすいように様々な努力をしてくださったので、とても感謝している。この研修を通して得ることのできた経験やスキルを今後の学生・社会人生活で活かしていきたいと考えている。

エジンバラ大学研修報告書

このエジンバラの研修は帰国後に『留学、どうだった?』と聞いてくれた全員に対して『めっちゃ楽しかった!!』と心の底からいえるものでした。しかし、スコットランドの地で英語を用いて法律を勉強する以上、苦勞したこと、学んだこともたくさんありました。そんな楽しかったこと、苦勞したこと、学んだこと等を①英会話、②エジンバラ大学での活動、③生活、観光に分けてお伝えします。

① 英会話

私は英語で文章を読むのは受験生だった時の名残なのか、そこまで苦痛ではありませんでした。けれども英語で会話するとなると冷や汗をかくほど苦手でした。話している英語が間違っていたらどうしよう。焦れば焦るほど相手の言うこともわからないし、言いたいこともうまく英語に変換できず、口数が減ってしまうという状態で、事前学習では思うように留学生と話せていませんでした。そうやって英語で話すのが億劫だと感じながら飛行機に乗ったわけですが、いざ英語を話さなくてはならない環境に放り込まれると英会話に対する気持ちが変わりました。研修中に英語で話した人たち、エジンバラ大学の先生、メンター、店員や滞在したホテルスタッフなど…ほとんどの人がにこにこしながら私と会話してくれました。特に先生やメンターとは全く馴染みのない法律用語(日本の法律学習にないようなスコットランドならではの単語もある)を用いての会話に苦勞しましたが、そのたびに丁寧に少しずつ話していただいたので、着実に身につけていったと感じています。また、英会話に関して印象に残っているものに、ウイスキーショップの店員とのやりとりがあります。ウイスキーエクスペリエンスという有名なウイスキーショップに行った時のことです。おすすめをある店員に聞くと店員は好みや価格帯、ボトルサイズなどあれこれと細かなことを聞いてくれたのですが、ぱっと単語が浮かばないこともあり会話は少々難航しました。店員には親切にレジまで付き合っていたのですが、手を煩わしてしまった、申し訳なかったと反省していました。店員に申し訳なさを感じつつ後日、友達の付き添いで私がお店に行くと、なんと、あの時の店員がにこやかに手を振りながら『ハロー！今日は何を探しに来たの?(意訳)』と話しかけてくれたのです。英語で会話しにくいとわかっている私に対してそのようなフレンドリーな接客をしていただけて嬉しかったです。このような人々のおかげで日々の英会話が楽しくなり、億劫だった英語をどんどん喋ってみようと思えるまでになりました。次はそんな英語を用いて行った②エジンバラ大学での活動についてお話しします。

② エジンバラ大学での活動

エジンバラ大学での活動は受け身ではなく自発的なものが多かったように思います。先生の講義に加えてグループワークやプレゼンテーション、裁判所、議会見学がありました。三週間の中でこれだけの活動をするというのはかなり充実の内容であるように感じられました。グループワークでは授業内で扱った内容について意見を述べあったり、自分の調べた

内容を教えあったりしました。関西学院大学や他学年の方と話し合っていると仲良くなれたし、さまざまな考え方も知ることができたので楽しかったです。プレゼンテーションは二種類行ったのですが、そのうちのポスタープレゼンテーションが特に面白く、勉強になりました。ポスタープレゼンテーションとは、調べた内容をまとめたポスターを貼っておき、それを見に来た観客からの質問に答える、というプレゼンテーションになります。普段行うプレゼンテーションと違ってポスタープレゼンテーションではポスターを端的に、しかしわかりやすく作っておくこと、受けた質問に答えることが重要でした。私たちはイギリスの判例についてのポスタープレゼンテーションをしたのですが、イギリスの法律をそんなに知らないのに加え、先生曰くトリッキーな判例だったので理解するのに苦労しました。英語ばかりのサイトを読み漁ったり、図書館に行ってイギリスの法律に関する書籍に触れたりするきっかけになり、良い経験になったと思います。本番では、ポスターを見に来てくださる観客の中には法学部でない方もいたために思わぬ質問をされたり、意見を求められたりと予想以上にハードでした。知っている英単語の中でどういえばよく伝わるのかというのを瞬時に求められた瞬間だったと思います。私たちのポスターは良くできていると先生に褒められたのですが、トリッキーな判例だったせいか法律に馴染みのない観客たちはポスターを読み始めるなり顔をしかめていました。その後、私との質問対応を受け、頷きながら納得したような顔をしているのが見られたときはかなりの達成感が得られました。裁判所や議会見学では実際に見ることによって、授業で習ったことや日本との法律体系の違いを実感することができました。

③ 生活、観光

物価はとても高く感じられました。卵一パックが日本円換算で500円もしたし、外食をすればあっという間に2,3000円分くらいにはなりました。ポンドが高い時期に行ったのも原因の一つではあると思いますが、日本円の安さを痛感しました。お財布のシビアさとは裏腹に、観光の方はとても華やかでした。街全体が世界遺産であるエジンバラはどこを見ても本当に綺麗でした。丘の上からはもちろん、坂も結構な高低差があり、そこからの景色は絶景で、散歩しているだけでも十分に満足できました。満月の日に撮った写真は私の自慢の一枚です。一方で天気があまりよくないこと、寒いこと、坂が多いことに関しては金沢に似



ている気がします。

イギリスのご飯といえばよく不味いといわれがちです。しかし食べてみると味が薄いだけで案外食べられるし、スイーツやクロワッサン、アフタヌーンティは格別でした。さらにホテルからの徒歩圏内にはたくさんのカフェや中華、イタリアン、日本食のレストランがあり、毎日を美味しく過ごせました。生活に慣れてくると友達で材料を寄せ集め、ホテルのキッチンでパスタやリゾットを作ったりもしました。見慣れない食材を使っただけの調理でしたがおかわりをしてもらえるほど美味しくできました。研修中に料理の腕も上げられたと思います。土日にはロンドンに行きました。小さいころからピーターラビットやシャーロックホームズの聖地として憧れていたロンドンですが、憧れへの旅は、陽気な乗客で賑やかな電車で5時間ほど揺られながらの始まりでした。一日目には半年前からイギリスに留学している金沢大学法学類の先輩にお会いしました。先輩は半年の間に英語がとても流暢になっていらっしやう上に、留学の様子についての話もしてくださったので大変刺激になりました。そんな先輩には街中を案内していただきました。たまたま入ったカフェが日本のテレビ番組に特集されたことのある有名店で、先輩の英語でのコミュニケーションのおかげですっかり店員と仲良くなり、記念写真を撮ってインスタグラムの交換までするというひよんな経験もしました。二日目にはピーターラビットの原画を見たり、シャーロック・ホームズミュージアムに行ったりしました。今までメディアの中でしか見られなかったものが目の前にあることに感激していました。また、日本から撤退した Harrods に行き大量の可愛いティペアに触れられたのも幸せでした。

最後に

事前学習が始まった頃はお互いのことを知らなかったメンバーですが、研修を経て仲良くなり、今でも勉強の相談をしたり遊んだりしています。さらに、メンターとも SNS を通じて繋がっており連絡を取り合っています。この研修では英語や法律、社会のことのみならず、人間関係においても得られるものがあり、大変良い思い出になりました。得られたことを活かし、今後も英語や法律、社会に関する勉学に邁進したいと思っています。私の留学を支えてくださった先生方、両親、メンバーの皆さん、本当に有難うございました。

エジンバラ大学法律英語研修 事後報告書

人間社会学域法学類

研修の概要

渡航期間： 2023 年 2 月 18 日（土） ～ 2023 年 3 月 13 日（月）

研修期間： 2023 年 2 月 20 日（月） ～ 2023 年 3 月 10 日（金）

- ・ 授業は午前中（09:00～13:00）のみ。スコットランドの法律について英語で学ぶ
- ・ 午後（14:00～15:30）はメンターによる現地案内や施設見学、課題準備の時間。
- ・ その他の時間や土日は各自の自由行動時間

目的：

英語で法律を学ぶことで、英語力と法学への理解の両方を高める。英語の語彙を増やし、ディスカッションやインタビューを通して英語のコミュニケーション能力を高める。日本と異なる法制度を学び、法学に関係するテーマについての研究活動を通して知識だけでなく時事的な課題への思考にも取り組む。

事前研修とその振り返り

基礎演習：

Q3・Q4 に履修。留学生と一緒に日本の法制度について英語で学んだ。法制度を英語で説明するための語彙に慣れることができた。授業では英語を話す時間が多く、日本の法制度を留学生に分かるように日本の文化的背景などを踏まえて教えるのが難しかった。

日本文化の説明ビデオ作成；

年末年始の日本独自の行事を紹介するにあたり、基礎演習と同じく違う文化圏に人に向けた説明をするのが難しかった。例えば“おせち”は日本人にはこの単語だけで伝わるが、英語ではこの言葉が指すものを彼らの知っている言葉を使って説明しなければならない。

自分の好きなもののプレゼン：

私の好きな小説をプレゼンした。このプレゼンをきっかけに研修の仲間と仲良くなることのできた。他の人のプレゼンに対する質問を積極的にできなかったのが反省点。

法学に関する社会問題のプレゼン：

夫婦別姓問題についてペアとプレゼンを準備した。「夫婦別姓」そのものの説明に苦戦したが、例やイラストを使うなど工夫した。私が担当したパワーポイントのデザインや内容を評価してもらえて、とても嬉しかった。

エジンバラについて学ぶ研修：

研修メンバーとのコミュニケーションを積極的に行うことができた。また、現地でやりたいことのイメージなどを膨らませることができた。あまり重要視していなかった研修だったが、現地での活動中、前に現地の知識をある程度知っておくことの大切さを痛感した。

エジンバラ大学からの事前課題：

自己紹介ビデオの作成、日本の法制度について理解を深めておく、エジンバラでの調査活動のテーマを考えておくという 3 つの課題があった。ここでは基礎演習の内容がとても役に立ったと思う。余裕があれば基礎演習の内容を自分なりに復習しておきたかった。

現地での活動とその振り返り

スコットランドの法律や法律専門職について学ぶ授業：

知らない単語がとにかく多く、意味を含めて把握するのが難しかった。新しい知識を学ぶのはとても楽しい。グループやディスカッションではつつい日本語で話しそうになったが、英語で話すことを心掛けた。自分よりも英語のスピーキングが上手な人がたくさんいたので、話し方や言葉の使い方などがとても勉強になった。

ライティング課題①： 議会訪問の感想

スコットランド議会は日本の国会議事堂やロンドンの国会と違って開放的で近代的な建物だった。外見だけでなく、スコットランド議会の限定的な立法権など政治的な側面も学んだ。

ライティング課題②： 裁判所見学の感想

実際の裁判の空気感を感じることができた。また、授業で学んだ専門職の人々を直にみることもできたのもよかった。裁判所で話される英語は速くて抑揚がなく、聞き取るのが難しい。

これを機に日本の裁判も傍聴してみたいと思った。

ライティング課題③： リサーチプロジェクトのプレゼン内容要約

授業で要約文の書き方を学び、実践した。長い文章を喋るよりも、内容をまとめたり要約文を書いたりするのが得意かもしれないと気付いた。

ポスタープレゼンテーション：

とても楽しかった活動。スコットランドの重要な判例を一つ選び、その内容をまとめたポスターを作成・発表するペア活動。私たちは著作権の判例を紹介した。複数の裁判が行われた事件だったので、時系列とそれぞれの判決のポイントが分かりやすく伝わるようにポスターのデザインを工夫した。また、法学生ではない人に向けての発表だったのでプレゼンでは専門用語を使いすぎないように気を付けた。スピーチは苦手だが、聴き手とほぼ一対一でのプレゼンだったのであまり緊張せずにできた。また、数をこなすうちにだんだんと聴き手とのコミュニケーションを楽しむことができた。

リサーチプロジェクト：

一番苦労した活動。二人で協力してストライキに関するリサーチをし、それをまとめてプレゼン発表をした。問いを決め、その答えを導くためのリサーチに取り組んだ。具体的には、インターネットや文献を使った背景事情の調査と街頭インタビューを行った。まず、街頭インタビュー用の設問を考えるのが難しかった。問いに沿った内容かつ端的で的確な内容にするために、ペアとたくさん話し合った。授業でもインタビューの聞き方や文言の工夫について学び、クラス内で練習もした。実際のインタビューでは、見知らぬ人に英語で声をかけるのがとても緊張したが、数をこなす中で徐々に抵抗がなくなっていった。自分からたくさんの人に話しかけたのはとてもいい経験になった。驚いたのは、多くの人が快く答えてくれ

たことだ。また、社会問題（ストライキ）について一人一人が明確な意見を持っていて、自分（日本人）との違いを感じた。現地の人の話す英語（特にスピード）は授業で聞くものとはやはり違って、聞き取るのが難しかった。しかし、インタビューを重ねるうちに耳が慣れる感覚があり、それが嬉しかった。また、聞き取れなかったところは録音を聞き返して文字に起こし、インタビューの結果をまとめた。地道な作業だったが、二人で分担・協力してプレゼンを完成させた。反省点は、リサーチや資料の作成に時間をかけたことでプレゼンの練習が不十分だった点。先生にもその部分を指摘され、特にアイコンタクトと話すスピードについて助言を受けた。普通の会話とプレゼンでは求められるスキルが異なるのを痛感した。研修中、英語で話す機会はたくさんあったが、「スピーチ」をする機会は少なかった。授業中のディスカッションなどでもっと「スピーチ」を意識すべきだったと思う。



その他の活動について

空港など：

トルコ空港を経由した長い旅だったが、その分知らない景色をたくさん見る事ができた。帰路は引率の先生がいない中自分たちで搭乗手続きをし、達成感があった。

週末の過ごし方など：

一週目の週末はロンドン、二週目の週末はグラスゴーに行った。現地の交通機関を使ってみると日本との共通点や違いが見つかり、面白かった。自分で行先や旅程を計画するのが苦でない、自由時間を存分に楽しむことができたと思う。3週間滞在したのに行きそびれた観光地があるくらい、エジンバラの街は見どころ満載。外を歩くだけでも日本とは全く違う街並みが楽しめる。行きたいことややりたいことはメンターに相談するといいいアドバイスもらえる。また、メンターとのコミュニケーションが英語を話す機会にもなった。

研修を終えて

「休学せずに海外に行ける」という動機で参加した研修だったが、学習面でも娯楽面でも滞在を満喫することができた。とても忙しく 3 週間があったという間なので、事前に調べられることはもっと調べてから来ればよかったと思うときが多々あった。また、ホテルでの滞在ということもあって同行メンバーとの仲が深まり、個人的にそれがとても嬉しかった。1 人や友人との旅行の機会があっても、同年代のあまり交流がなかった人と長期間一緒に過ごすという機会は今後なかなかない。関学の人と交流して、新学期の勉強のモチベーションも上がった。英語や法律に限らない経験や学びができる研修だった。

エジンバラ事後報告書

私がこのエジンバラ法律英語研修に参加しようと考えた動機は3つある。1つ目は、自らの英語力の向上を図りたかったことである。今後世界はどんどんグローバルになっていくと予想される。そのため、海外の人々とコミュニケーションをとれるようにしておくことは将来確実に何かの役に立つと考えた。2つ目は、他国の法制度に興味を持っていたことである。まだ1年次であったので日本の法制度でさえもあまり詳しくはなかったが、大まかには理解していた。例えば、日本では死刑制度がいまだに存続しているが、海外の、特に先進国に至っては死刑制度を廃止している国が多いということである。そのような違いについて学んでみたかったというのが2つ目の動機に当たる。3つ目は、時間に比較的余裕のある大学生のうちに海外の日本とは異なる文化を体験してみたかったことである。私はこれまで海外に一度も行ったことがなく、今回が初めての渡航であった。以前より外国に行きたい、異文化を体験したいという強い思いがあった。そこで入学してしばらくした際にこのプログラムがあると知り、ぜひとも参加したいと感じ、申し込みを決意した。

この研修では、スコットランドの法制度について学べたり、街中の人々にインタビューをして自分たちで関心を持ったテーマについてのインタビューをしたり、それをまとめて英語で発表、質疑応答をしたりと様々な新しい体験ができて本当に充実した3週間であった。ときには、授業後にメンターがエジンバラのまちを案内してくれることもあり、歩いて観光をしながら現地の人々と会話を交わすといった体験は非常に貴重なものだと感じると同時に、自分たちで調べるだけではなかなか行くことのできないような穴場スポットに連れて行ってくれたり、バーでの楽しみ方や現地のダンスパーティーを教えてくれたりと、現地の人ならではの楽しみ方を学び、実践することもでき、とても興味深かった。



上の写真は、左がメンターに教えてもらったバーでの写真、右がスコットランドの伝統的なダンスパーティーである Ceilidh というものの様子である。このバーではメニューの種類が非常に豊富で、カクテルを一例に挙げても 6 種類、しかもそれぞれのカクテルの説明の内容が見たこともない単語ばかりで構成されておりまったく何を飲めばいいのかわからなかった。そこで隣にいたメンターに聞いたところ、初めて飲むならこれがおすすめ、お酒が弱い人にとってはこれが飲みやすい、といったことを教えてくれたため失敗することなく楽しむことができた。Ceilidh もメンターに勧められたため参加してみたのだが、初めて行った私でも非常に楽しむことができた。日本にはあまりない、その場に集まった男女でペアになって踊るというもので、現地の人や私と同じくほかの地域から訪れた人たちと無差別にペアを組んだり換えたりするのは新鮮でおもしろかった。そこを訪れている人々の目的は様々で、週に一回の運動目的で訪れている人もいれば、多様な人々との交流を目的としてきている人もいた。

三週間ほどスコットランドに滞在しており、当然現地の先生との会話は英語であり、英語を使って買い物や観光もしたのだが、実際まだまだきちんと話せるようになるまでには時間が足りていないと深く実感した。日本人学生と英語を使って話すことももちろんあったが、伝えるのが難しいと感じたことや雑談は日本語で行った部分もある。もちろんこの研修に参加する前と比べれば大きく自分の英語の会話能力は向上し、海外の人々と話す自信をつけることもできたのだが、授業で意見を求められたときや自分の考えを述べる際に、自らの会話能力のなさを実感する。この研修に参加してみて、自分の能力の低さを実感したとともにさらに英語能力を高めたい、もっと流暢に会話できるようになりたいという思いがより一層強くなった。もしまた機会があり、金銭的余裕もあれば一年間ぐらいの期間の留学に行ってみたいと思っている。そうでなくとも、オンライン英会話の授業を受けたり留学生と積極的に話したりと自分の英語を伸ばす方法は考えさえすればいくらでもあるはずなので、この研修での経験を忘れないうちにさらに英語力を伸ばす工夫をしたい。

エジンバラ法律英語研修 報告書

法学類 4 年

学籍番号 :

Abstract

"I'd like to study abroad, but I'm afraid of living in a foreign country..." Do you think so? Certainly, living in a foreign country is quite different from living in Japan. Furthermore, if you participate in this programme, you will have to study in an unfamiliar language at university. This report will focus on my way of life in the UK and my university studies, to help you if you have not been abroad much (maybe not at all). I hope this note will help you with your future travels and studies at the University of Edinburgh.

はじめに

2 月 18 日～3 月 12 日の日程で、3 年ぶりに開催されたエジンバラ法律英語研修に参加しました。参加者は総勢 15 人、関西学院大さんとの合同開催です。本プログラムに参加した理由は、これからのために英語力を鍛えたかったから、そして英国に行ってみたかったからです。しかし私は、この研修のために人生で初めてパスポートを取得したというレベルで、海外に行った経験がありませんでした。本稿は、そんな人間が 3 週間の滞在をなんとか生き延びた方法を示すことを目的としています。

1. 渡航前準備

1-1. パスポート取得

本研修は、語学要件として IELTS5.0 以上のスコアを取得している必要があります。そして、IELTS を受験するためには申し込みの時点で旅券番号を入力する必要があります。よって、パスポートを持っていない場合、まずやることはリファレーの 3 階に行ってパスポートを新規に発行することです¹。発行したら、旅券番号などが書いてあるページを写真に撮っておきましょう²。

1-2. IELTS 受験

どんなに英語が得意な人でも、TOEIC 満点のスコアを持っている人でも、IELTS のスコアを持っていないならばこれを受験する必要があります。全国的に見れば毎週どこかしらで試験が行われていますが、金沢で受験する場合は 2～3 ヶ月に一度しかチャンスがありません。TOEIC よりもはるかに受験料が高いため、無駄にしないためにも計画的に勉強する

¹ 石川県在住の場合。自分の住民票がある県の旅券発行窓口に行くのが最も楽だが、移していない場合でも、賃貸の契約書などを持って行って住所の証明ができれば石川県で発行してもらえる。

² 旅券番号を参照する機会が意外と多い。本来は肌身離さず持つべきだが、スーツケースに入れっぱなしにすることもあると思うので、いつでも情報が確認できるようにしておく。

必要があります。なお、研修参加予定者は大学から IELTS 受験料の補助が出ます。

1-3. 英語の勉強

何を当たり前のことをと思われるかもしれませんが、語学はサボった分だけ力が落ちていきます。読み書きは自習できますが、会話は相手がいないと難しいので、金大に在籍している留学生と交流するイベントや、東川先生の基礎演習などになるべく参加するのがいいでしょう³。当日までに、できるだけ「英語で話すこと」への忌避感や恥ずかしさといったものをなくせるとベストです。

2. 研修——学習編

2-1. 講義

エジンバラ大では朝 9 時から授業がスタートします。午前には二限、何か特別なアクティビティがあるときは午後に一限ありました。

午前の講義のうち、一限は英国およびスコットランドにおける司法制度などについて学びました。法曹一元制の仕組みなどの裁判実務に関わる話、民事/刑事法の英国における一般的な考え方などの法システムの話、英国政府とスコットランド政府の関係の話など、話題は多岐に上ります。これは日本語で法律を学ぶときもそうですが、法律用語は基本的にテクニカルタームであるため、一般的な用法と違ったり、そもそも未知の単語だったりします。先生はかなり丁寧に語の意味や用法を説明してくださるので、自分の中で既知の概念と結びつけられるように、事前に日本語の法律用語を学んでおくといでしょう。



図 1 Law School の建物

また、先生は英国の話をしてくださいますが、日本との違いにも興味を持っておられます。ことある毎に「これは日本ではどうなっている？」と聞かれるので、日本の法制度や司法システムのアウトラインを一通り学習しておくことを強くすすめます⁴。

2-2. レッスン

二限目は、ポスター発表と最終プレゼンに向けたレッスンをしました。最初は会話の続け方の説明から始まり、自己紹介や他己紹介をメンバー同士でしたり、judge・barrister・solicitor ならどれになりたいかななどの話題で、とにかく「人と英語で会話をする」ことを目的としていました。表現のポイントや発音に関するアドバイスもありました⁵。私はこれのおかげで、拙い語彙力でもとにかく伝えることの重要性を学びました。同時に、英語で話すことに対す

³ 私はちょうど院試と卒論執筆が重なってしまい、基礎演習には最後まで参加することができなかった。それでも、リスニング教材や洋画、TED などを使ってシャドーイングしたり、BBC ラジオを聞いたりとするなどしてなんとか力が落ちないよう足掻いていた。

⁴ 例：法曹三者になるための手順、不法行為の要件、裁判所の概要（地裁と簡裁の違いなど）、日本の主要政党など。

⁵ 私のアメリカ英語的な発音をものすごく気にするあたりはさすが英国人だと感じた。"Kohei, is your teacher an American?" と煽られたのもいい思い出である。

る免疫がついて、街に出ても物怖じせず会話ができるようになったと思います。

その後はプレゼンに向けて、アカデミックな語彙や表現、スライド作成のコツ、プレゼンで喋る際のポイントなどを教わりました。

2-3. プレゼン

最終週には、各グループで選んだ話題についての10分程度のプレゼンをします。その準備をレッスンでしていたのは上に書いたとおりですが、他にも街頭インタビューやインターネットでのデータ集めなど、たくさんすることがありました。授業時間内ではとても終わらないので各自持ち帰ってスライドを作ったり、前日の夜中に集まってスピーキングの練習をしたりしました。

3. 研修——課外活動編

3-1. スコットランド議会見学



図 2 スコットランド議会議場⁶

第一週にスコットランド議会を見学しに行きました。スコットランドには日本の地方公共団体とは比べものにならないほど広範な権力を持つ政府があり、議会があり、裁判所が存在しています。スコットランドのこうした政府機関とイングランドにある the UK の代表としての政府機関との関係は、書き始めると長くなるので割愛します。

その職員の方による解説を聞きながら議場などの見学をしました。が、私の拙いリスニング力ではすべてを理解することは難しかったです。ゆっくり話してくれと言えば考慮してもらえるので、分からないことがあったら積極的に質問しましょう。

3-2. 裁判所見学

第二週には裁判所の見学に行きました。ところが私はこの週、ひどい風邪を引いてホテルで寝込んでいました（後述）。他のメンバーの報告をご覧ください。

3-3. エジンバラ市街ツアー

その他の日の三限や講義の後に、エジンバラ大の mentor の学生によるエジンバラ大学/市街ツアーがありました。バスでエジンバラを一周したり、点在するキャンパスを巡ったり、国立博物館見学やパブでの飲み会をしたりしました。mentor の二人はとても気さくで親しみやすく、学習や日常で困ったことへのアドバイスもしてくれました。

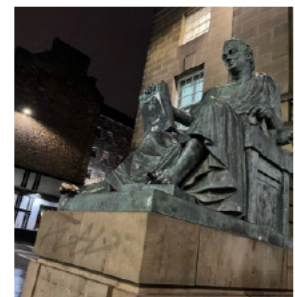


図 3 David Hume の銅像

4. 観光

せっかく英国に行く機会ですから、語学や法律の勉強も大切ですが、観光にも積極的に

⁶ 天井の特徴的な梁は「張弦梁トラス」というらしい。

くべきです。幸い、大学での講義はたいてい午前中に終わるので、課題がない日の午後は観光に行く時間がけっこうあります。エジンバラは街全体が世界遺産ですし、講義のない週末にはメンバーのほとんどの人がロンドンへ1泊2日の旅行に行っていました。

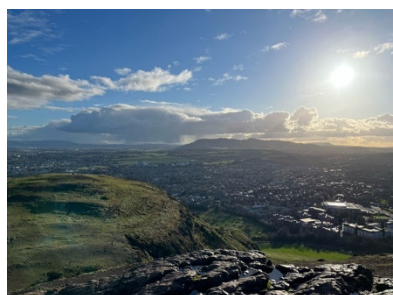


図 4 Crow Hill からの景色

特にロンドン旅行については、日本にいるうちから旅程を練っておいたほうがいいです。ホテルや飛行機の予約などは、直前になればなるほど料金が跳ね上がります。私は BritRail Pass という英国全土を結ぶ National Rail（日本でいう JR）が乗り放題になる券を購入し、列車に乗ってロンドンまで行きました。飛行機で行く場合は、ピークの時間を外せば片道 6000 円くらいで行くことができる場合があるそうです。いずれにせよ、そういった手段のリサーチを事前しておくこと

をおすすめします。

5. 生活

このプログラムはホームステイをすることを前提としている（少なくとも 3 年前まではそうだった）のですが、今回は COVID の影響もありホームステイをすることが難しかったため、私たちはホテルに滞在しました。そのため、朝昼夜すべての食事や洗濯など、生活に関わることはすべて自分たちでなんとかする必要がありました。

5-1. 食事

幸い、宿泊したホテルは各部屋に簡単な料理をすることができる道具一式が揃っていたので、近くのスーパー（Tesco、Waitrose など）で買ったパスタを茹でたり、リゾットをつくったりしました。時間が無いときはサンドイッチで済ませることもありました。大学にはカフェテリアもあるので、昼食はそこでよく食べていました。夜は複数人でレストランに行ったり、パブで飲み明かしている人もいました⁷。

5-2. 洗濯

今回宿泊したホテルには共用のコインランドリーが設置されており、部屋にはアイロンもありました。おしゃれ着洗いをしたい場合は、別途店を探す必要があります。

5-3. 気候

英国は西岸海洋性気候の地域であるため、緯度の割には暖かいです。しかし、天気の変化する必要があるため、晴れていると思ったら 10 分後には雨が降ったりします。私たちが滞在している間には雪も降りました。北陸に住んでいる皆さんなら、見慣れている気候です。折りたたみ傘やフード付きの上着を持っていくのがよいでしょう。



図 5 Big Ben

⁷ 英国は 18 歳以上ならアルコール類を購入したり大人の同伴なく飲むことが許されています。英米法の某先生曰く、「これが属地主義や！」。

5-4. 支払い

今の時代、海外旅行でもっとも手放せないのはクレジットカードとスマホです。逆に、この二つがあれば大概なんとかなります。

英国はキャッシュレス決済が発達しているので、ほぼすべての店（地下鉄、トラム等公共交通機関を含む）で現金を使う必要がありませんでした。唯一、絶対に必要だったのは、コインランドリーで洗濯をするときでした。そして、Visa・Mastercard はほぼすべての場合に使えましたが、JCB はあまり使えない印象でした。もっていくカードは前者二つのどちらかをおすすめします。

5-5. 通信

そしてスマホですが、通信をする手段として大きく二つ方法があります。日本出国前に空港などで Wi-Fi ルータをレンタルするか、英国キャリアの SIM カードを買うことです。私は日本にいた間に SIM カードを通販で購入しました。SIM については、現地の空港や携帯ショップ、スーパーなどでも売っているので、そこで調達するのもよいでしょう。

なお、英国は日本と比べて携帯電話の通信網が貧弱です。建物に入ったり地下に行ったりするだけで電波が弱くなります。走っている列車の中でも怪しいです。地下鉄は全くダメです。その一方で、日本よりもフリーWi-Fiが発達している印象でした。施設に入ればたいはいはその建物にある Wi-Fi につなげられるので、携帯の電波が悪くなったら Wi-Fi がないか探すとよいでしょう。

5-6. 病気になったら

滞在二週目に私はひどい風邪を引き、講義に行けなくなりました。英国は日本と違い既にマスクをする人がほとんどいなかったのもあり、どこかで拾ってしまったのだと思います。

当初はすぐ治るだろうと思っていたので、友人が日本から持ってきていた風邪薬もらって、ただ安静にしていました。しかし症状が思ったより長引いてしまい、結局二週目は月曜日以外すべて欠席する羽目になりました。明らかに病院に行くべきだったのですが、海外保険との兼ね合いや、ひとまず払うことになる診療費がどうなるのか事前に調べていなかったため、診察に行くのをためらってしまいました。また、病院に行ったとして自らの症状を的確に説明できる自信もありませんでした⁸。幸い大事には至りませんでした。もし厄介な病気だったら今こうして日本に帰ってこられているかもわかりません。もしもに備えて、病院にかかる方法をあらかじめ調べておくべきだと強く思いました。

おわりに

最後に、Edinburgh 大の David、Alison、Cathy、mentor の 2 人、金沢と関学の研修メンバーの皆、東川先生、関学の木村先生、そして私を助けてくれたすべての人に感謝の意を表し、私の研修事後報告とさせていただきます。

⁸ これは医学用語がテクニカルタームであることが大きい。翻訳ソフトを駆使して乗り切る手もあったと思うが、当人にそのような気力はなかった。いずれにせよ、リサーチ不足が原因である。

エジンバラ大学法律英語研修 事後報告書

私はおそらく海外経験がない状態でエジンバラ大学法律英語研修に参加した数少ない人物の一人である。この報告書を作成するにあたり、「海外経験のない学生」という視点からこの研修について感じたことを述べてい。

私がこの研修に参加しようと思った理由は、1年生という大学生活の中でも比較的自由な時間が多い期間で何か新しいことにチャレンジしたいと思ったからだ。しかし、私には人生の中で1度も海外に行ったことがないという大きな不安要素があった。ここで、私の英語力について簡単に説明したい。私の IELTS のスコアは L : 5.0, R : 6.5, W : 5.0, S : 4.0 でスピーキングが大きな弱点であった。弱点克服のために GS 科目の英語クラスを履修したり、総合教育棟1号館で行われている「FUNGLISH」というイベントに参加したりしたがなかなか上達せず、参加するかどうかぎりぎりまで悩んでいた。しかし、今振り返ると研修に参加して本当に良かったと思っている。むしろ、「海外で学んでみたいけど英語力に不安がある人」にこそ、この研修をおすすめしたい。私がこのように考える理由は3つある。

1つ目は、参加者と助け合うことができるため1人で海外に行くよりチャレンジしやすいという点である。今回の研修では、諸事情によりホームステイがなく、参加者全員が同じ宿泊施設(アパートメントホテル)に滞在していた。そのため、困ったことがあればすぐに直接会って相談することが可能であり、このような環境があるだけでとても精神的に楽になった。特に、ちょっと外出したいときに誰かを誘えることは、海外で1人で行動するのが怖かった私にとって大変ありがたかった。

2つ目は、メンターの方々が手厚いサポートをしてくれるという点である。メンターは金沢大学でいう TA のような存在で、エジンバラの街を案内してくれたり、プレゼンテーションの準備を手伝ってくれたりするなど多くの場面でお世話になった。私は彼らにレストランやバーを教えてもらうことを強くおすすめしたい。バーは入るまで雰囲気が分からず選ぶのが難しいため、現地で生活している人に教えてもらった方が安全だ。紹介してもらったレストランはどれも美味しかったし、特にアフタヌーンティーは比較的安いうえに本場の味を楽しむことができ、最高の経験となった。私たちを担当してくれたメンターの方々はとても親しみやすく、一生懸命話を聞いてくれたので、スピーキングに自信のない私でも話しやすかったし、研修が始まった当初はなるべくメンターの方々に話しかけることを目標にしていた。彼らと話すことで英語で会話することに対する自信をつけていくことができたと思う。

3つ目は、向上心のある人々とたくさん出会えるという点である。海外経験豊富な参加者達が自然にコミュニケーションをとっているのを見るのはとても良い刺激になった。日

常会話で必要なちょっとしたフレーズを学ぶことも多く、心強い存在だった。また、「刺激」は英語学習に関するものだけではなく、参加者が全員法学徒ということもあり、将来法曹を目指す人達からも様々な話を聞いたのも大きな収穫だった。向上心のある人はどの分野でも手を抜かないということが強く印象に残った。私自身進路選択の明確なビジョンがなかったので非常に参考になったし、英語や法学の学習に対するモチベーションも高まった。

以上、私がこの研修を海外留学の第一歩としておすすめする理由である。もちろん私は他の参加者よりも英語が話せず苦勞した。特に自分の語彙不足を痛感する場面が多く、いざ自分の意見を言おうとしても、何とさえいいかわからず沈黙してしまうこともあった。しかしその一方で、日本では感じられなかった「言語としての英語」とそれを学ぶ意義を強く意識できた3週間でもあった。これからは英語と法学の学習の両立を目指していきたいと考えている。私のように英語力に不安があっても、その中でもがけばきっとその状況なりの発見や経験がある。少しでも興味があれば是非積極的に参加してほしい。